

# みらいん

みやぎの

「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。

第 16 号



◀自宅の修繕のめどがついて、希望としては年内に堀切へ戻れればうれしい。あくまで希望ですよ(笑)

今月の  
ひと

## 地域や世代を超えた交流をめざす 堀切町内会の前副会長

### 自分自身の一步を踏み出せる年にしたい

堀切の自宅が被災し、福田町南1丁目公園仮設住宅に義母、妻、次男と4人で生活している松浦正男さん。同仮設住宅には堀切出身の方の数は少ないため、孤立しないようにと町内会前副会長の松浦さんは、特に堀切の皆さんのことを気にかけてきました。営業職に約40年従事した中で培ったコミュニケーション力や高い事務処理能力、そして穏やかで人情味ある人柄から、さまざまな役を任される松浦さん。岡田コミュニティ・センターの事務長兼会計を2011年2月に引き受けた直後には、震災で避難した岡田小学校体育館で、食事と支援物資の責任者を3ヵ月引き受けました。「自分の家のことなどはそっちのけで家族に迷惑をかけましたが、誰かがやらないとね」その精神は変わらず、「皆で集まって食事しましょう」と、同仮設住宅の皆さんと昨秋から毎月第4土曜日の夕方、同敷地に建つ「みんなの家」で、手づくりの料理と飲み物で「ワン・コイン・パーティー」を開いています。さまざまな役に走り続けてきた松浦さんですが、徐々に自宅の修繕に取りかかっています。「遅ればせながら、やっと自分自身の一步が踏み出せる年になりそうです」



2013

3月



# 未来への一歩

住まいの再生

防災集団移転促進事業による移転を待たず、独自に戸建て住宅を購入した蒲生北部地区出身の方々がいます。震災から二年が経つ今、新たな土地で生活を始めているご家族に話を伺いました。

移転先 岡田・港南

## 郡山さんご一家

お答え●世帯主・和弘さん

Q 元の住まいはどちらでしたか？

A 蒲生出身です。父で三代目になる石材店は西原で営んでいます。

Q 入居時期とそれまでの流れは？

A 昨年六月です。萩野町のアパート住まいだった昨年一月末、港南の中古物件を見学に来て、その日に「ここに決めよう」となりました。普段から物件の立地に関する話を家族でしており、希望地は岡田で一泊していたので決断も早かったです。

Q 単独移転を決めた理由は？

A 一番に考えたのは子どものこと。将来、転校させずに学校に通わせたいから早期に移転しました。家が落ち着かないと勉強もかどらないでしょ。

Q 物件を決める際にこだわった点

A 両親が何とか頑張って再建した石材店が今、元の近所の方たちの集まる場になっている。その為にも蒲生から遠くない港南という立地にこだわりました。モデルハウスだったらしく駐車場の広いところや、敷地内に津波が入らなかったことも決め手だね。

Q 「これまでを振り返って」と「今後について」

A 単独移転に踏み出せたのは、家族全員が無事だったから。打ちひしがれてどうしようじゃなくて、頑張ればなんとかなるって考えました。震災以降、神経質になっていた子どもが、ここに来てからのびのびと育っています。これから学校に通うようになったら、子どもを介して近隣の方々とも色んな付き合いが出てくると思う。岡田、港南の皆さん宜しくお願いします。



左から智子さん、和弘さん、咲香ちゃん、聡子さん、柚季ちゃん、勝雄さん。「太陽のように明るくなくっちゃ」と言う智子さん。新たな住まいで2人の子どもたちも元気に育つように皆が願っています

移転先 中野栄・出花

## 菅原さんご一家

お答え●世帯主・雅洋さん

Q 元の住まいはどちらでしたか？

A 西原の妻の実家近くに家族で住んで十年くらいでした。

Q 入居時期とそれまでの流れは？

A 昨年の一月に土地と建物の契約をして、十月に入居しました。仙台市内やその周辺で新築、中古物件と共に色々な地域を見ましたが、子どもたちが今までと変わらずに中野小学校、高砂中学校に通える立地が良いと考えました。そんな時に知人が、建築条件付きの土地が空いていることを教えてくれ、そこへ連絡してくれたんです。住宅メーカーの担当者が震災の支援助成の動向をみながら相談に乗ってくれ、頼りになりました。

Q 単独移転を決めた理由は？

A 当初は集団移転も考えていました。でも、早く落ち着いた環境で生活を始めたかったので単独移転を決めました。

Q 物件を決める際にこだわった点

A 家族全員が卓球をやっていますから、台所に卓球台が入るように考えた間取りや、卓球などで人が集まる場になると良いなあ、と駐車場を広めに取ったこともこだわりですね。

Q 「これまでを振り返って」と「今後について」

A 西原では体育振興部に属していた関係いがありました。これからもそのつながりを大事にしつつ、新しい地域の人たちと仲良くなっていきたいです。隣が偶然、中野小学校時代の私の同級生だったり、和田地区の卓球仲間も近所に越してくる予定で、蒲生時代の縁が繋がっています。



左から広美さん、巧輝君(小5)、珠弥さん(中1)、雅洋さん。昨年は中野小学校区の成人団体チームとして最後の出場となった市の卓球大会で、雅洋さんらのチームが準優勝。その賞状は「菅原卓球場」(笑)で預かっています

移転先 岡田・港南

## 岩城さんご一家

お答え●世帯主・友和さん

Q 元の住まいはどちらでしたか？

A 港地区です。二十八年間過ごしました。

Q 入居時期とそれまでの流れは？

A 一昨年の十月。中古物件を探していました。見た物件はこのみ。一昨年の夏前に家族全員で見に来てみたらしいことから、皆で納得してすぐ決めました。選んでいる時間の余裕は無かったですね。沢山の人が見に来ると思って、すぐ契約しました。少し時間が掛かったけど、リフォームもしてくれました。

Q 単独移転を決めた理由は？

A 震災後、多賀城市高橋のアパートにいた際、犬を飼っていることでクレームが来たりと窮屈だった。自分らで再建するしかないと思い、高砂中学校に行きたいという子どもを考えると、高砂学区内で探しました。今となっては「犬のおかげで家を持てたのかなあ」と思います。

Q 物件を決める際にこだわった点

A とにかく早く移りたかった、というスビド面の他、叔母がこの近所について、母の職場の豆腐屋も遠くない。妻も、子どものバレーボールの関係で知り合いが近所にいる好立地ということ、津波が来ていない安全面からこの物件を選びました。

Q 「これまでを振り返って」と「今後について」

A 震災後、いち早く人道支援に奔走した泥臭い仲間の、行動力に感化されて動き始めることが出来た。仲間やその親との付き合いを続けながら、妻は新たな友達づくり、娘はバレーボールを頑張っています。



左から聡子さん、勝子さん、萌さん(小6)、由春さん、友和さん。家族付き合いをしていた夫婦が亡くなり、その残された子どもたちを呼んでバーベキューをすることもあります



このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にレター形式でご登場いただきます。



◀とよさん(右)と武彦さん。小さなバスケットにいで避難したネコのてんも、こんなに大きくなりました。皆を癒やしてくれる大事な家族の一員です

第11回

遠藤とよさんご一家(岡田・南蒲生)

家族一緒に避難

南蒲生で農作業に従事しながら趣味や地域活動に積極的に参加していたとよさんは、長男で仙台市動物管理センターに勤務する武彦さん、その長女で大学生の孫・秀美さんと一緒に平穏な生活を送っていました。あの日、とよさんは「大きい津波がくるらしい」と、近所の方の言葉を受けて、春休みで家にいた秀美さんと、前日の10日に生後2カ月で新たな家族になったばかりの子ネコ「てん」と一緒

に、車で即座に避難しました。連絡がとれなかった武彦さんとは、その夜、動物管理センター付近で偶然会って、家族一緒に避難できました。

霞目で新しい生活がスタート

大和町の妹宅でお世話になった後は、霞目の借り上げ民間賃貸住宅で生活していましたが、「75歳の母の年齢を考えると、小さくてもいいから早く自分の家を建てたかった」と、武彦さんは間もなく単独移転に動き始めました。山形の大学に通う秀美さんの交通の便と、自宅があった敷地の畑に毎日通うとよさんにとって霞目は好立地でした。「お盆前には移転したかった」というとよさんの希望が叶って、昨年8月には霞目で新しい生活がスタート。現在とよさんは毎日農作業に通いつつ、週2日はエアロピクスと太極拳を習いに多賀城市へ出かけています。「家族皆にとって猫のてんが癒やしになってくれた」と語る武彦さんは、職場へさまざまな事情で届けられる犬や猫が新しい家族に引き取られて幸せになれることを願っています。「今が一番幸せ」と語るとよさんたちは、遠方から駆けつけてくれたボランティアや見ず知らずの方から受けたご恩など、いつかお返しができるように感謝を忘れずに日々を過ごしています。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

新浜復興の会

新浜の新たなまちづくりを検討する現地再建グループと、上岡田・久保野地区への集団移転を目指す移転再建グループが、それぞれの復興を果たすべく活動しています。



▶「記載した要望を活かして欲しい」と昨年5月に続いて2回目となった要望書提出

1月30日(水) 新浜地区の再建に伴う要望書の提出

内容 ●行政への要望書提出と要請

当日の様子 遠藤代表より●現行支援制度の更なる充実、特に現地再建における住宅建設の借入金に対する利子相当額の補助●避難道路、施設の早期整備●移転跡地活用における規制緩和と行政主導による利活用促進●集団移転地の円滑な開発に対する配慮、が要望として市側へ伝えられました。市側からは「血の通ったキャッチボールをしながら、町づくりを進めていきたい。久保野への集団移転についても、お金だけでなく皆さんの負担を軽減できるよう実現に向けて取り組んでいく」との返答がありました。

復興の会の問い合わせ先:代表 遠藤芳広 090-2020-4002  
移転再建グループ問い合わせ先:  
リーダー 瀬戸健介 090-1066-5646

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、独自の復興まちづくり計画を策定し、市への提案を行っています。



▶浄化センターの4階から、海岸堤防工事の様子を見学しました

2月16日(土)避難施設の視察研修会

内容 ●南蒲生浄化センター視察 ●日鐵住金建材敷地内の避難タワー視察 ●南蒲生町内避難道路の現地検討会

当日の様子 浄化センターでは、重要機器を低層階に設置しないなどの震災経験を活かした施設設計や、防災時は屋上まで階段で駆け足で避難する、といった防災意識を学びました。続けて視察した避難タワーでは、要望に応じて床材の種類やスロープなどの取り付けを選択できるという施設の説明を受けました。避難道路検討会では、専念寺南側の県道へ繋がる道路を拡幅することで避難道路に活用できるのではないか、などの意見が上がりました。

問い合わせ先:代表 芳賀正 090-4042-9464  
会合は随時開催  
住民説明報告会:毎月最終日曜日 岡田会館

みらいん編集部 取材ダイアリー

1月 2月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

15日(火) 自家製雪べらで雪かき

(福田町南1丁目公園仮設住宅)  
大雪が降った翌日に、敷地内の雪かきをした平山次雄さん。使用する雪べらは昨年自作したもので、使われている杉板は昨年の本紙企画「ありがとうを届けよう」で知り合った、亀井建具屋さんから譲り受けたもの。「丈夫なはずだ。今このケ(くらい)の大きさの杉板なかなか手に入らねんだ」(笑)

27日(日) 温かい信州そばに“おかわり!”

(港南西公園仮設住宅)  
ここに住む方々にとってご縁のある、西本願寺ボランティアセンター長野教区から、信州そばの炊き出し支援に、高校生がボランティアとしてやってきました。休日のためたくさん集まった子どもたちも、こぞって“おかわり”。



2月6日(水) 健康管理は適度な運動で

(仙台港背後地6号公園仮設住宅)  
寒さが続く冬場は、運動不足になりがち。「生活不活発病を防ぎましょう」と口で言うだけでなく、道具を用意して皆さんの健康管理に役立ててもらおうと自治会が用意しました。写真は、常連の遠藤惣治さんと赤間憲さんです。



中野小学校区復興対策委員会

2月3日(日)第36回中野小学校区復興対策委員会

報告事項  
〈4町内会から〉  
●合同慰霊祭について  
・日時:3月17日(日)10:00~  
・場所:中野小学校駐車場敷地  
●西原/2月3日意見交換会を実施  
●和田/4月21日総会を実施予定  
●港/1月20日総会を実施  
\*交流会では住民から再建にあたって資金面の不安を感じている声が多数述べられた

〈プレハブ仮設住宅から〉  
●今年1月から3プレハブ仮設住宅(鶴巻1丁目東公園、高砂1丁目、仙台港背後地6号公園)自治会と宮城野区役所で情報交換会を実施

〈仙台市教育局から〉  
●校舎解体によるお別れ会開催について  
・日時:4月7日(日)10:00~予定  
・場所:中野小学校校庭(雨天の場合は校舎内予定)  
●校舎解体後のメモリアル施設については新年度に全市として検討する

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

〈復興事務局から〉  
●仙台港周辺の津波防御対策と蒲生北部地区の津波浸水深について  
●「仙台港背後地住宅地区」宅地申込み状況について(※2月2日現在)  
・区画数25区画に対して27世帯から13区画について申し込みあり  
●復興公営住宅「北六番丁公営住宅」の申し込み状況について  
・防災集団移転促進事業対象者に優先申し込みを実施し1世帯の入居が決定

当日の様子 教育局より2名が出席し中野小学校校舎等の解体にあたり、「お別れ会」を催すことについて話し合われました。詳細については、保護者会や同窓会など地域の方々と交えて教育局側と話し合うことが確認されました。メモリアル施設については、平成25年度から復興事務局をはじめとし全市として具体的な話し合いを進めていくことが報告されました。

問い合わせ先:委員長 高橋實 022-258-3068  
定例会議:毎月第1、第3日曜日16:00~  
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

読者からひとこと

●蒲町の借り上げ民間賃貸住宅に住んでいます。毎月二回、皆さんと地元の鍋沼にある岡田会館の掃除をしています。掃除の後に皆でお茶を飲みながらお話しするのが楽しい。先日は菩提寺である専念寺の「お講」に参加し、仏教婦人部の皆さんとも会えて和やかな時間を過ごしました。お蔭様で、住まいが離れても交流できています。  
芳賀ひさ子さん

●南蒲生町内会の皆さんにとってよりどころである神明社(通称「お伊勢様」)が、神社庁の支援を受けて昨年十二月二十日に現地再建しました。二月中には氏子九名で集まりをもち、今後のことを話し合つ予定です。震災前のように、春や秋の例祭を再開できたらうれしいですね。まずは四月十五日の春の例祭をどうするかを話し合います。  
中島正志さん

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



# 被災地レポート

取材地

## 株式会社大町 (白鳥地区)

### レンタルハウス事業で被災地の復興を支える

「災害時は衣食住がままならなくなる。その中でも住まいという大切な部分を支えていきたい」。そう語るのは、簡易住居・事務所「スペースハウス」の製造元、株式会社大町の渋谷金男会長です。人々の生活、行動の場として使い勝手のいい住空間を提供し、復興を下支えしています。

大町は、一九六六年に自動車整備工場として渋谷会長が創業。その後、ユニットハウス製造事業にも進出しました。輸送の難しさがネックとなっていた大型ユニットハウスを折り畳む画期的なアイデアを思いつき、少ないスペースで運搬できるようにしたのです。「折り畳み式ハウス」については特許を持っています。二〇〇八年にはハウス事業部を分社化し、ハウスのレンタル事業に力を入れてきました。

東日本大震災では、本社一階部分には約二層の津波が押し寄せ、図面



大町が製造するユニットハウス。初期型のハウスは30年以上使用可能な耐久性を誇ります

などの大切なデータが入ったパソコンが浸水しました。敷地内にあったレンタルハウスや車両の多くも流されました。「会社のがれきで埋め尽くされた光景を見て、もう廃業しようかという思いも一瞬よぎったほどです」と、渋谷会長は当時を振り返ります。

再起を決意させたのは、南三陸町からの助けを求める声でした。震災からわずか二日後、津波で流された町役場の仮庁舎として使うため、ハウスの提供依頼が舞い込みます。渋谷会長は、すぐさま約二十棟のユニットハウスを無償で貸し出すことを決めました。ハウスは、川崎町の

製造工場に保管していて無事だったものを活用。耐久性が高くすぐに設置できるため、スピードが求められる復旧作業の現場で大活躍しました。その後、無事だった若林区卸町の自動車整備工場に臨時的に拠点を移し、南三陸町や岩手県陸前高田市などの沿岸部に、店舗や事業所を再開するためのハウスをレンタルし、被災地の復旧を陰ながら支えてきました。業務と同時進行で、被災した事業所や本社敷地内の片付けも徐々に進め、昨年二月には本社内での業務を再開できました。



モンゴル政府からの支援物資を受け入れ、仕分けをするため、地域住民に開放した本社の倉庫

昨年三月には、モンゴル政府から届けられた支援物資の受け入れのために復旧した直後の本社敷地内倉庫を開放しました。約十五トンの人数にして一千人以上ものカシミヤの衣類や毛布が、倉庫内を埋め尽くしました。周辺地域の町内会役員の方々が物資の仕分けをして、住民のもとに「温かな支援物資」は届けられました。

震災後は、渋谷会長みずからハウスの点検のために被災地を飛び回っています。「自分の目で沿岸被災地を直接見ると、復興はまだまだこれからだということが分かります」東北育ちの技術、「大町のユニットハウス」は、これからも復興を目指す被災地を支えていきます。



大町会長の渋谷金男さん(右)と社長の孝志さん

### 支援物資の受け入れ先として地域にも貢献

昨年三月には、モンゴル政府から

# 情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

## 中野小学校区復興対策委員会からのお知らせ

(東日本大震災中野学区合同慰霊祭)  
中野学区合同の慰霊祭を開催します。  
対象 港・蒲生・西原・和田各町内会の方など  
時 3月17日(日)10:00~12:00  
場所 中野小学校駐車場跡地  
※直接会場にお越しください

## 健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)  
対象 どなたでも参加できます  
時・所 各仮設住宅集会所  
▼高砂1丁目公園 3月22日(金)10:00~  
▼鶴巻1丁目東公園 4月9日(火)13:00~  
▼福田町南1丁目公園 3月18日(月)10:00~  
4月1日(月)10:00~  
▼岡山西町公園 3月12日(火)13:30~  
3月21日(木)10:00~  
▼港南西公園 4月12日(金)10:00~  
▼仙台港背後地6号公園 3月19日(火)10:00~  
▼扇町1丁目公園 3月15日(金)13:30~  
▼扇町4丁目公園 3月13日(水)10:00~  
☎ 022-291-2111(内線6782、6784)宮城野区家庭健康課健康増進係

## 支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
お茶っこ交流会「季節の寄せ植え」	田子市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	3月15日(金)	10:00~12:00	田子市民センター	季節の寄せ植えを楽しみましょう(ハンギングバスケット協会)	要(電話)	支えあいセンターみやぎの022-292-0990
寄せ植えサロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方(定員20名)	3月15日(金)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	寄せ植えで春の花を楽しみましょう	要(電話)	支えあいセンターいずみ022-772-5755
はっと汁づくり	福沢市民センター周辺にお住まいの方	3月19日(火)	13:00~15:00	福沢市民センター	はっと汁をつかって、皆で楽しく食べましょう	要(電話)	支えあいセンターあおば022-217-7234
第2回「やっべし石巻茶話会」	石巻から避難され、主に太白区内のみなし仮設にお住まいの方	3月23日(土)	10:00~12:00	太白区中央市民センター	同郷茶話会	要(返信はがき)	支えあいセンターたいはく022-217-7234
ふんふんさんとあそぼう!!	若林区に避難されている未就学児のいる世帯	3月28日(木)	10:30~12:00	沖野市民センター	ふんふんさんによるパントマイム、バルーンアートほか多彩なパフォーマンス	要(返信はがきか電話)	支えあいセンターわかばやし022-781-0559

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

## 津波で流出した写真などをお返しします

東日本大震災の津波被害地域(宮城野区・若林区)でのがれき処理作業中に回収された写真、アルバム、賞状など思い出の品を展示し、所有者やご家族へお渡しします。  
対象 どなたでも入場できます  
時 開催中(3月11日(月)まで) 9:00~16:30  
場所 サンピア仙台(若林区蒲町東10)  
主催 仙台市、震災復興ボランティア団体 おもいでかえる  
☎ 022-214-3109仙台市消防局減災推進課

## 中小企業者・個人事業者向け二重ローン説明会

震災の被害により、過大な債務を負いながらも被災地域で事業の再生を図ろうとする事業者の方に対して、債権買取などにより再建を支援する、国より設立された震災支援機構による説明会を開催します。説明会終了後、希望する方には個別相談(事前予約可)も行います。  
対象 東日本大震災で被災した中小企業者、個人事業者  
時 3月13日(水)15:30~17:00  
※無料・申込不要  
場所 エル・ソーラ仙台(青葉区中央1-3-1 アエル28階)  
☎ 022-214-1003仙台市地域産業支援課

## 中野小学校校舎のお別れ会を開催します

3月下旬から、中野小学校の解体に着手する予定です。解体にあたり、これまで長きにわたって子どもたちの成長を支え見守ってきた校舎のお別れ会を開催します。  
対象 どなたでも参加できます  
時 4月7日(日)10:00~予定  
場所 中野小学校校庭(宮城野区中野字西原152)  
※直接会場にお越しください  
☎ 022-214-8860仙台市教育局学事課



## こころ編 薄板一枚

暮れに思ひがけず五針も縫ふ大怪我をしてしまいました。膝小僧が縦にパツクリ割れて骨まで見えたと言者から言はれました。寂かな年末が血に染まりました。

麻酔注射の強烈な痛さの中で先づ頭に浮かんだのは、あの日、この同じ状況で津波に襲はれ、傷口からバイ菌が入って大変な目に遭った人も少なからずあらしたであろうなあとふこと。それからもうひとつは、還暦を迎える少し前から、毎日ある薬を飲み続けないと死に至る病気を患ってしまった私ですが、大地震で家屋が倒壊したり、家ごと津波に流されて大切な薬や医療器具を紛失してしまった方々も沢山くあらしたでせうから、そのあと一体どうしたのかなあといふこと。

地球は生きてゐるとは云へ、あのやうな地殻変動さへなかったなら、今日も平穩無事な日常が続いてゐたわけですが、でも考へてみますと、実に現実には危なかつかしく、荒海に笹の葉のごとく浮かぶ小舟が、薄い底板一枚で辛うじて助かっているのと同じに思へます。生と死は分けられないのですね。紙の裏表のやうにいつもピツタリとくっついてゐるのです。

徳照寺 住職 佐藤和丸

### 佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

## クロスワードパズル

出題  
石田竹久

こたえ	A	B	C	D
-----	---	---	---	---

1	2	3	4	5
6	7	8	A	
		9		
	10	C	11	12
13		14	15	
	16		17	B
18				D

### タテのカギ

- ①4月1日～6月30日、仙台・宮城観光キャンペーンが開催されます。キャッチフレーズは「〇〇〇咲きたび伊達な旅」
- ②青葉区の小松島にある「瞑想の〇〇」は樹齢600年以上
- ③凸の反対
- ④〇〇〇〇と実益を兼ねる
- ⑤ずんだ餅に使われることもある、香りと味わいのよい仙台ちゃ〇〇
- ⑥店のレジで読み取る、バー〇〇〇
- ⑦オリンピックの旗は、〇〇〇旗
- ⑧愛宕神社があり、広瀬川や市街地を一望できる愛宕〇〇
- ⑨船で人や荷物などを対岸に渡す所。かつては広瀬川にもありました
- ⑩仙台管区気象台によると、仙台市の〇〇〇〇気温は100年あたり2.3℃上昇と、他の大都市同様のヒートアイランド現象が見られます
- ⑪米が田なら、野菜などは?
- ⑫しろがねといえば銀、くろがねといえば?
- ⑬〇〇を食うとは、損をこうむること

### ヨコのカギ

- ①願いごとなどを書いて神社に奉納する絵の額
- ②気仙沼市に属する、東北地方最大の島
- ③卒業式、入学式、学芸会などは、〇〇〇〇行事
- ④宮城野区にあるみやぎ産業交流センター。愛称は、〇〇メッセみやぎ
- ⑤仙台市立の小・中学校で年度末まで取り組む「ふるさと復興プロジェクト」。児童生徒が登校時の〇〇拾いを行なったりします
- ⑥団体が宿泊するとき、いくつかの宿に振り分けること
- ⑦海岸に沿った平らな陸地
- ⑧川崎町、蔵王町、白石市、丸森町の県内4エリアで、3月15日まで続くイベントは、「三日月〇〇〇〇団 政宗の隠し財宝」
- ⑨400年ほど続く太白区の柳生〇〇。柳生小学校の卒業証書にも使用されています
- ⑩仙台市出身の土井晩翠は、青葉城や会津若松城を歩いて、『荒城の〇〇』を作詞しました
- ⑪お彼岸に墓前に供えられる〇〇〇〇〇。仙台市近辺特有の、木材を使った造花です

### 前回のこたえ

A オ B ン C セ D ン

でした。

1	ユ	2	キ	3	オ	4	オ	5	カ	ミ
6	ケ	ガ	7	ワ	8	ウ	ミ			
	ム		9	ク	10	シ		11	ゲ	
12	リ	13	ヤ	14	ユ	15	カ	16	タ	
	オ		17	ア	18	ウ	19	ン		
20	ウ	セ	ン	ナ	ラ					
	メ	シ	カ	マ	ン					

### 編集後記

「近況報告」の遠藤武彦さんが勤務する動物管理センターには、震災による住宅事情の他に、最近飼主の離婚などでペットを手放す人が多いか。命の尊さは動物も同じですね。(芳賀)

本日は雪が降っています。寒さを凌ぐために着ぶくれてモコモコ。靴下も2枚重ねです。脂肪の層を減らさなくてはと思いますが、そこはもう少し寒さのせいにはしたいです。(おおが)

### お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部  
TEL: 022-390-5755  
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mmmm.or.jp